

山梨の鋳職人たち

かざり

2026

3/14_[土]



6/15_[月]



ペンダント 《桃夭の風》

デザイン：関戸 和代
制作：清水 幸雄 株式会社シミズ貴石
深澤 利彦 鋳工房深澤



リング 《燦めきの萌芽》

デザイン：関戸 和代
制作：小池 浄 オーフ芸

「鋳」とは宝飾加工、すなわち装身具に用いられる貴金属を精緻に仕上げる工芸技術のことを指します。

かつて昭和初期に「水晶の山梨」として全国的な評価を確立した研磨宝飾産業の背景には、この鋳の高度な技術が大きく寄与していました。その技は地域産業の成長を支え、今日の宝飾産地としての地位を確かなものにしてきました。

山梨の研磨宝飾産業において貴金属工芸(鋳)が重要な役割を担うようになったのは、江戸時代後期に京都から伝わった水晶の研磨技術が地域に根付き、やがて水晶加工品を際立たせる貴金属装飾が求められるようになったことで、装身具制作の領域が大きく広がりを見せたためです。

元々、江戸時代末期にはすでに鋳屋が存在していた記録が残っています。煙管や髪飾りの制作が行われ、中でも「甲州かんざし」と呼ばれた銀製の平打ちかんざしが広く流通し、人気を博したことから、この地に優れた金属工芸の素地が早くから育まれていたことがうかがえます。

明治期に入ると、水晶加工と貴金属加工の協働が進み、互いの技術が融合しながら、山梨独自の宝飾文化が形成されていきました。

その文化は、大正・昭和・平成、そして令和へと続く時代の大きな変化の中でも受け継がれ、職人たちの努力によって地域に深く根づき、山梨を日本有数の宝飾産地へと押し上げました。

現在においても、貴金属加工はジュエリー制作に欠かすことのできない工程として重要な役割を担い、山梨の研磨宝飾産業を支えています。

山梨が誇る職人たちは、今日もなお精緻な技と研ぎ澄まされた感性をもって制作に向き合い、独自の美を追求し続けています。その手仕事の数々を、どうぞご鑑賞ください。



実演工房・体験工房の紹介

土日祝日は職人の匠の技を間近で見学することができる実演工房と、宝石研磨や貴金属加工などができる体験工房を実施しています。

山梨ジュエリーの歴史や企画展示を見学した後は、ぜひ体験工房で自分の手でジュエリーを作ってみませんか。



山梨ジュエリーミュージアム

〒400-0031 山梨県甲府市丸の内1-6-1
山梨県防災新館1階やまなしプラザ内 TEL 055-223-1570
<https://www.pref.yamanashi.jp/yjm/>



開館時間：午前10時～午後5時30分(最終入館は午後5時)

休館日：火曜日(祝日の場合は、その翌日)、5/5(火・祝)は開館、5/7(木)休館)、年末年始、その他臨時に開館・休館することがあります。

駐車場：92台(山梨県防災新館地下有料駐車場、来館者は1時間無料)

入館無料



※地下駐車場へは山梨県庁舞鶴通り側入口よりお入りください。